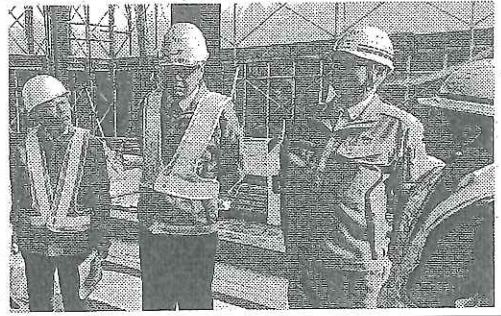


札幌市内のホテル建設現場を視察する林会長（中央）



林会長らが北海道新幹線現場など視察

鉄建建設

鉄建建設の林康雄代表取締役会長、藤森伸一取締役兼執行役員副社長は10月30、31日に北海道新幹線新函館北斗～札幌間の延伸工事など3現場を視察した。北海道新幹線の現場には同社が開発したインバートコンクリートを施工するための栈橋を導入しており、林会長らは新工法の積極導入による効率化の工夫などを評価した。

視察したのは▽北海道新幹線、渡島トンネル(天狗)他工事(北海道北斗市)▽同昆布トンネル(桂台)他工事(ニセコ町)▽F.P.

HOTELS札幌大通り新築工事(札幌市)ーの3現場。渡島トンネルには鉄建設と土木資材商社の東宏(札幌市東区、小林雅彦社長)が開発した、山岳トン

ネル工事のインバートコンクリートの施工スピードを向上させる「急速施工用インバート栈橋」を初適用している。縦断方向に2分割できる斜路を移動させることでインバート掘削中やコンクリート打設中でも栈橋上の車両通行を可能にし、施工サイクルを確保するもので、これにより従来は1日おきだったインバートコンクリート打設が毎日できるようになる。

現場視察を終えた藤森副社長は「インバート栈橋など、新しい工法が現場に使われていることを確認した。今後も新しい工法を開発しながら技術力を高めていきたい」と話した。今後の北海道新幹線の工事に向